

# 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果・分析と今後の取組について

大台町教育委員会

令和4年10月

本年4月19日に小学校第6学年及び中学校第3学年を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」の結果が、7月28日に文部科学省から公表されました。

調査結果や本町における児童生徒の学力の定着状況、学習状況、生活習慣等の分析結果、今後の取組について以下のとおりまとめました。

なお、「全国学力・学習状況調査」は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することを目的としています。調査により測定できるのは学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面であることも考慮しながら、今後の教育の一層の充実を図ってまいります。

## 1. 調査の概要

### (1) 実施日

令和4年4月19日(火)

### (2) 調査参加人数

小学校4校 6学年の児童65名 / 中学校2校 3学年の生徒57名

### (3) 調査の内容

#### ① 教科に関する調査

小学校6学年の児童【国語・算数・理科】

中学校3学年の生徒【国語・数学・理科】

#### ② 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

## 2. 教科に関する調査の結果・分析

### (1) 各教科の平均正答率の状況

平均正答率については、小学校国語は、全国平均とほぼ同等、算数・理科は、全国平均よりやや低い数値を示しています。中学校は、国語・数学のいずれも全国平均よりやや高い数値を示し、理科は、全国平均とほぼ同等です。

### (2) 本町における特徴的な傾向

児童生徒の解答状況について、全国比からみる教科別の強み・弱みと考えられる項目を取り上げて説明し、現状と課題を示しています。

強み・弱みと考えられる項目について、平均正答率と全国平均正答率と比較し、  
「強み」＝平均正答率80%以上かつ全国平均正答率以上の問題  
「弱み」＝平均正答率30%未満もしくは全国平均正答率よりマイナス10%の項目を取り上げて記述しています。

小学校

< 国語 >

■強み・弱みと考えられる項目

<b>○強み</b>	<p>問題1一  【話し合いの様子の一部】における谷原さんの発言の理由として適切なものを選択する。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：89.2%（全国：85.5%）</p> <p>話し言葉と書き言葉の違いを理解することができます。</p> <p>問題1三  【話し合いの様子の一部】で中村さんが前田さんに質問し、知りたかったことの説明として適切なものを選択する。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：92.3%（全国：84.7%）</p> <p>必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分の聞きたいこと  の中心を捉えることができます。</p>
------------	---

<b>△弱み</b>	<p>問題1四  「ごみ拾い」か「花植え」かのどちらかを選んで、<input style="width: 50px; height: 15px;" type="text"/>でどのように話すかを書く。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：36.9%（全国：47.7%）</p> <p>互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることが十分できていません。「書くこと」について、もう少し力をつける必要があります。</p>
------------	---

< 算数 >

■強み・弱みと考えられる項目

<b>△弱み</b>	<p>問題1（4）  <math>85 \times 21</math>の答えが1470より必ず大きくなることを判断するための数の処理の仕方を選ぶ。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：26.2%（全国：34.8%）</p> <p>示された場面において、目的に合った数の処理の仕方の考察が十分できていません。目的に応じて比べ方を考えることについて、もう少し力をつける必要があります。</p>
------------	---

	<p>問題4 (1)</p> <p>示されたプログラムについて、正三角形をかくことができる正しいプログラムに書き直す。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：33.8% (全国：48.8%)</p> <p>正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての角の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述することができていません。「図形」の領域について、力をつける必要があります。</p>
--	--

< 理科 >

■強み・弱みと考えられる項目

○強み	<p>問題1 (1)</p> <p>見いだされた問題を基に、観察の記録が誰のものであるかを選ぶ。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：98.5% (全国：92.9%)</p> <p>問題を解決するために必要な観察の視点を基に、問題を解決するまでの道筋を構想し、自分の考えをもつことができています。</p>
-----	--

△弱み	<p>問題2 (1)</p> <p>一定量の液体の体積を適切にはかり取る器具の名称を書く。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：29.2% (全国：67.8%)</p> <p>メスシリンダーという器具を理解していません。「知識・技能」について、もう少し力をつける必要があります。</p>
	<p>問題3 (1)</p> <p>光の性質を基に、鏡を操作して、指定した的に反射させた日光を当てることができる人を選ぶ。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：23.1% (全国：27.8%)</p> <p>日光は直進することが十分理解できていません。「エネルギー」を柱とする領域について、もう少し力をつける必要があります。</p>

中学校

< 国語 >

■強み・弱みと考えられる項目

○強み	<p>問題1ー</p> <p>スピーチの一部を呼びかけたり問いかけたりする表現に直す。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：82.5% (全国：74.7%)</p> <p>聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫することができる。</p>
-----	---

	<p>問題 2 一 意見文の下書きの一部について、文末の表現を直す意図として適切なものを選択する。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：87.7%（全国：82.3%）</p> <p>助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことができます。</p>
	<p>問題 2 二① 漢字を書く。(のぞく)</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：91.2%（全国：82.1%）</p> <p>問題 2 二② 漢字を書く。(よろこんで)</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：82.5%（全国：80.5%）</p> <p>文脈に即して漢字を正しく書くことができます。</p>
	<p>問題 4 二 最初に書いた文字の漢字のバランスについて説明したものとして適切なものを選択する。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：94.7%（全国：90.1%）</p> <p>漢字の行書の読みやすい書き方について理解できています。</p>
	<p>問題 4 三 書き直した文字の「と」の書き方について説明したものとして適切なものを選択する。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：86.0%（全国：81.1%）</p> <p>漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解することができます。</p>

△弱み	<p>問題 3 三 話しの展開に沿って「オレ」の行動や心情を並べ替える。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：49.1%（全国：62.0%）</p> <p>場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえることができていません。「読むこと」について、もう少し力をつける必要があります。</p>
-----	---

## < 数学 >

### ■強み・弱みと考えられる項目

○強み	<p>問題 2 連立二元一次方程式 <math display="block">\begin{cases} 2x + y = 1 \\ y = x + 4 \end{cases}</math> を解く</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：80.7%（全国：74.5%）</p> <p>簡単な連立二元一次方程式を解くことができます。</p>
-----	---

	<p>問題 5</p> <p>容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：87.7%（全国：83.3%）</p> <p>多数の観察や多数回の試行によって得られる確立の意味を理解しています。</p>
	<p>問題 6（1）</p> <p>同じ偶数の和である <math>2n + 2n = 4n</math> について、<math>n</math> が 9 の時どのような計算を表しているかを書く。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：80.7%（全国：73.8%）</p> <p>問題場面における考察の対象を明確に捉えることができています。</p>
	<p>問題 9（1）</p> <p>証明で用いられている三角形の合同条件を書く</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：84.2%（全国：73.2%）</p> <p>証明の根拠として用いられている三角形の合同条件を理解できています。</p>
△弱み	<p>問題 9（2）</p> <p><math>\angle ABE</math> と <math>\angle CBF</math> の和が 30 度になる理由を示し、<math>\angle EBF</math> の大きさがいつでも 60 度になることの説明を完成する</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：19.3%（全国：12.5%）</p> <p>筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明することができていません。数学的に説明できる力を、もう少しつける必要があります。</p>

< 理科 >

■強み・弱みと考えられる項目

△弱み	<p>問題 2（3）</p> <p>上空の気象現象を地上の観測データを用いて推論した考察の妥当性について判断する。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：22.8%（全国：28.5%）</p> <p>飛行機雲の残り方を科学的に探究する学習場面において、地上の観測データを用いて考察を行った他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することができていません。「地球」を柱とする領域について、もう少し力をつける必要があります。</p>
	<p>問題 3（3）</p> <p>水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとを指摘する。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率：29.8%（全国：24.8%）</p> <p>化学変化に関する知識及び技能と「エネルギー」を柱とする領域の知</p>

	<p>識及び技能を関連付け、水素を燃料として使うしくみの例の全体を働かせるおおもとして必要なものを分析して解釈することができていません。化学変化と「エネルギー」を柱とする領域の知識及び技能を関連付け、分析して解釈する力をつける必要があります。</p>
問題 5 (1)	<p>おもりに働く重力と釣り合う力の矢印を選択し、その力について説明する。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率 14.0% (全国 : 15.3%)</p> <p>力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつりあう力を矢印で表し、その力を説明することができていません。「エネルギー」を柱とする領域について、もう少し力をつける必要があります。</p>
問題 6 (3)	<p>東西方向と南北方向の地層の断面である露頭のスケッチから、地層が傾いている向きを選択する。</p> <p style="text-align: right;">平均正答率 : 28.1% (全国 : 34.2%)</p> <p>地層の広がり方について、時間的・空間的な見方を働かせながら、ルートマップと露頭のスケッチを関連付け、地層の傾きを分析して解釈することができていません。「地球」を柱とする領域について、もう少し力をつける必要があります。</p>

### 3. 質問紙調査（児童生徒用・学校用）に関する調査の結果・分析

児童生徒質問紙は、児童生徒に生活習慣や学習の様子をアンケート形式で問う調査のことです。生活の諸側面や学習環境などについて質問があります。また、学校質問紙は、学校の指導方法に関する取組などについて質問があります。質問の中からいくつかを取り出してお示しします。

#### (1) 生活習慣について

##### 【児童生徒質問紙】

項目 1 : 朝食を毎日食べていますか。		
		(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)
児童	90.8%	(全国 94.4%)
生徒	93.0%	(全国 91.9%)
項目 2 : 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。		
		(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)
児童	81.5%	(全国 81.5%)
生徒	84.2%	(全国 79.9%)

項目 3 : 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

児童 90.8% (全国 90.4%)

生徒 96.5% (全国 92.2%)

項目 5 : 普段、1日当たりどれくらいの時間テレビゲーム(コンピューターゲームやスマートフォンを使ったゲームも含む)をしますか。(3時間以上)

児童 26.1% (全国 30.7%)

生徒 36.8% (全国 29.8%)

項目 6 : 普段、1日当たりどれくらいの時間携帯電話やスマートフォンで SNS や動画視聴などをしますか。(3時間以上)

児童 16.9% (全国 19.7%)

生徒 35.1% (全国 45.1%)

基本的な学習習慣を身に付けるため、今後も引き続き、生活指導や食育を推進していきます。テレビゲームやスマートフォンの使用等については、家庭で話し合い、ルールを決めて守るなど自己管理能力を育て、生活習慣を確立していくことが大切です。

## (2) 学習習慣について

### 【児童生徒質問紙】

項目 20 : 家で、自分で計画を立てて勉強していますか。

(「している」「どちらかといえば、している」と回答した割合)

児童 75.4% (全国 71.1%)

生徒 68.4% (全国 58.5%)

項目 18 : 学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、勉強しますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)

(児童・生徒とも、1時間以上と答えた割合)

児童 64.6% (全国 59.4%)

生徒 70.2% (全国 69.5%)

項目 26 : 読書は好きですか。

(「好き」「どちらかと言えば好き」と回答した割合)

児童 73.8% (全国 73.1%)

生徒 68.4% (全国 68.2%)

### 【学校質問紙】

項目 77・75 : 家庭学習の取組として、児童(生徒)に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた。

(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

小学校 100.0% (全国 96.5%)

中学校 100.0% (全国 93.6%)

項目 79・77：家庭学習の取組として、学校では、児童（生徒）が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか。

（「よく生かした」「どちらかといえば、生かした」と回答した割合⇒

小学校 100.0% （全国 89.7%）

中学校 100.0% （全国 92.7%）

家庭学習については、小中とも家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教え、家庭学習の大切さを感じられる取組を進めています。家庭での協力も含め今後継続して取り組んでいく必要があります。

### （3）児童生徒の自己肯定感等について

#### 【児童生徒質問紙】

項目 7：自分には、よいところがあると思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

児童 66.1% （全国 79.3%）

生徒 74.1% （全国 78.5%）

項目 8：先生はあなたのよいところを認めてくれていると思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

児童 78.4% （全国 87.1%）

生徒 89.5% （全国 86.6%）

項目 15：人の役に立つ人間になりたいと思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

児童 90.7% （全国 95.1%）

生徒 100.0% （全国 95.0%）

項目 16：学校に行くのは楽しいと思いますか。

（「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合）

児童 81.6% （全国 85.4%）

生徒 86.0% （全国 82.9%）

#### 【学校質問紙】

項目 10：学校生活の中で、児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組をどの程度行いましたか。

（「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合）

小学校 100.0% （全国 98.7%）

中学校 100.0% （全国 98.1%）

児童の自己肯定感等に関する項目は、全国平均を下回っています。教師が子ども一人ひとりのよさを認め評価している姿勢との間に差があります。子どもたちが、さまざまな学びの場を通して、「わかった！できた！」という達成感を積み重ね、自己肯定感を高めることができるよう、励ましながら子どもたちの学びと育ちを支える取組をさらに進めます。



#### (4) 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について

##### 【児童生徒質問紙】

項目 38: 授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表していたと思いますか。 (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)	
児童	66.1% (全国 65.4%)
生徒	69.2% (全国 63.3%)
項目 39: 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか。 (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)	
児童	73.9% (全国 76.8%)
生徒	88.2% (全国 79.2%)
項目 43: 学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか。 (「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合)	
児童	75.3% (全国 80.1%)
生徒	87.1% (全国 78.7%)

##### 【学校質問紙】

項目 23・29: 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか。 (「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」と回答した割合)	
小学校	100.0% (全国 87.2%)
中学校	100.0% (全国 87.9%)
項目 30: 調査対象学年の児童(生徒)に対して、前年度までに、習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか。 (「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)	
小学校	75.0% (全国 88.0%)
中学校	100.0% (全国 88.2%)
今後も新学習指導要領が示す「主体的・対話的で深い学び」による授業改善について、各校で意識して取組を進めます。	

#### (5) 家庭・地域・学校に関する状況

##### 【児童生徒質問紙】

項目 29: 今住んでいる地域の行事に参加していますか。 (「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)	
児童	72.3% (全国 52.7%)
生徒	54.4% (全国 40.0%)

項目 30：地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

児童 38.5% (全国 50.4%)

生徒 28.1% (全国 40.7%)

児童生徒とも地域行事への興味関心が高いことがうかがえます。しかし、地域や社会をよくするために何をすべきかを考えるまでには至っていません。子どもたちが地域の良さ、地域の人々の温かさに触れ、地域に愛着を持つ活動が大切であり、またそのための活動に各学校が取り組んでいます。

## (6) ICTの活用等について

### 【児童生徒質問紙】

項目 32：小学校5年生までに（中学校1、2年生のときに）受けた授業で、コンピュータなどのICT機器を週3回以上使用しましたか。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

児童 61.5% (全国 58.2%)

生徒 94.7% (全国 50.9%)

項目 34：あなたは学校で、コンピュータなどのICT機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするために、週1回以上使用しましたか。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

児童 58.4% (全国 49.4%)

生徒 63.2% (全国 43.5%)

項目 36：学習の中でコンピュータなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

児童 92.3% (全国 94.4%)

生徒 96.5% (全国 92.6%)

### 【学校質問紙】

項目 60：自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）では、児童（生徒）一人ひとりに配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

小学校 100.0% (全国 92.2%)

中学校 100.0% (全国 87.6%)

項目 61：自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童（生徒）一人ひとりに配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、週1回以上使用した。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

小学校 75.0% (全国 78.1%)

中学校 100.0% (全国 73.8%)

項目 62：児童(生徒)一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの ICT 機器を活用して、「教職員と児童(生徒)同士がやり取りする場面」を週 1 回以上設けていますか。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

小学校 100.0% (全国 72.1%)

中学校 100.0% (全国 70.8%)

項目 67：児童(生徒)一人ひとりに配備された PC・タブレットなどの ICT 機器について、児童(生徒)の特性・学習進度等に応じた指導に週 1 回以上活用した。

(「よく行った」「どちらかといえば、行った」と回答した割合)

小学校 75.0% (全国 48.6%)

中学校 100.0% (全国 35.3%)

G I G A スクール構想が本格実施されて 2 年目。各校の情報教育担当者を中心に、会議や研修を重ね、活用状況について情報共有を行っています。昨年 8 月より I C T 支援員を各校へ派遣し、I C T 機器の環境整備、操作支援などを通じて、校内研修や研究授業を円滑に実施できるよう学校をサポートし、I C T 教育の充実に取り組んでいます。また、今年度より I C T 支援アドバイザーを配置し、授業における I C T の効果的な活用についての研修を実施しています。

#### (7) 学校運営に関する取り組み状況

##### 【学校質問紙】

項目 14：I C T を活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

小学校 100.0% (全国 94.2%)

中学校 100.0% (全国 94.3%)

項目 17：児童(生徒)の姿や地域の現状に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連の PDCA サイクルを確立している。

(「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と回答した割合)

小学校 100.0% (全国 93.6%)

中学校 100.0% (全国 93.3%)

全ての学校で組織として業務改善に取り組んでいます。また、PDCA サイクルの確立にも継続して取り組んでいます。

## 4. 大台町におけるこれまでの取組

○「大台町学校教育の方針」の策定と各学校での具体化した取組

- 大台町小中連携教育推進会議における、C R T学力検査分析結果や学力向上の取組交流
- 大台町小中連携教育推進会議における悉皆による研修会の開催
- 指導主事による学校訪問と授業研究・事前事後研修会における指導・助言
- 各小中学校にA L Tを配置し、英語教育を充実
- 町の図書館司書と連携した取組
- I C Tアドバイザー、I C T支援員を配置し、情報教育を充実

## 5. 児童生徒の学びの充実を図るための今後の取組

### (1) わかる授業づくり

- ①すべての児童生徒が、基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できる授業づくり
  - ・必要な知識・技能について、しっかりと教えます。
  - ・つまずきやすい内容を事前に把握し、確実な習得を図るための繰り返し学習を行います。(C R T検査の活用)
  - ・I C Tアドバイザー、I C T支援員のサポートのもと、一人1台端末を積極的に活用します。
- ②「主体的・対話的で深い学び」の視点で授業改善を行い、思考力・判断力・表現力を育む授業づくり
  - ・問題解決的な学習の基本的な取組を進めます。
  - ・他の考えを受け入れて、判断する力を育みます。
  - ・目的や相手に応じて話したり、聞いたりする力を育みます。
  - ・資料やグラフ・表を読み取る力を育みます。
  - ・端末を活用して自分の考えを広げたり深めたり、資料を使って表現できる力を育みます。
  - ・目的に応じて資料を読み、自分の考えを書いたり、理由が分かるように書いたりする力を育みます。
- ③「見通す・振り返る活動」を重視した授業づくり
  - ・めあての提示の工夫、例えば「日常の生活場面からの問題提起」「驚きや感動を与える導入」「既習事項との関連(習得した知識・技能の活用)に気付く導入」授業等を行います。
  - ・補充的・発展的な学習指導の充実を図ります。
  - ・振り返る活動について、その時間の確保に努め、学力定着につながるあり方を工夫していきます。

### (2) 研修等の充実

- ①研修の充実とP D C Aサイクル
  - 習得・活用及び探求の学習過程を見通した指導方法の研修を充実させ、学校の教育活動に学力向上のP D C Aサイクルを無理なく位置づけます。
- ②小中連携教育推進会議での交流
  - 小中連携教育推進会議において、全国学力・学習状況調査、C R T検査の分

析結果や学力向上の分析・取組の交流、「できなかった」ことを確実に「できる」ようになるための検証を進め、各校でのより有効な授業実践につなげていきます。

### (3) 学習習慣等の確立

#### ① 家庭との連携

これまで小中連携教育推進会議において「大台町家庭学習系統表」を作成してきました。引き続き、これを活用しながら自主的な学習習慣の確立を図るとともに、特に小学校段階からの学習習慣の確立(全国比小-4.3%, 中+9.9%)を図るために、家庭と連携を図ります。

#### ② 「ほめる」取り組み

全ての学校教育活動を通じ、児童生徒の自己肯定感、自己有用感を醸成(全国比小-13.2%, 中-4.4%)していきます。家庭と連携し子どもを「褒める」取組を充実させていきます。